

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2176回★ 山岳連盟平成10年度 一斉清掃登山 (全国環境保護月間協賛) 天王山	6月14日(日) 9:00 JR山崎駅前	井戸 澄夫 (内810) 岡田 茂久 (自宅392-2070)	天王山を守る会と合同で実施
第2177回★ 南山城 鷲峰山	6月21日(日) 9:00 京阪宇治駅	鷲見 敏一 (自宅881-4994)	信西入道塚…金胎寺(行者場廻り)…空鉢ノ峰…一等三角点…湯屋谷-京阪宇治駅
第2178回★★ 大峰 山上ヶ岳・稲村ヶ岳	6月27日(土)~28日(日) 27日 8:00 竹田駅西口	井戸 澄夫 (内810) (外822-9181)	京都-(R24)-下市口-洞川…山上ヶ岳(泊)…稲村ヶ岳…洞川
マイカーで行きます。山上ヶ岳の宿坊に泊まります。			
第2179回★★★ 十勝岳と トムラウシ山	6月30日(火) ~7月5日(日) 関空 9:55発	吉田 武 (内654)	費用 100,000円 シュラフ, 防寒具, 食料
(行程) 1日目 京都-関空-帯広空港-トムラウシ温泉 2日目 トムラウシ温泉…トムラウシ山…ひさご沼避難小屋 3日目 ヒサゴ沼…天人峽温泉 4日目 天人峽温泉-十勝温泉…十勝岳…白金温泉 5日目 白金温泉-札幌駅-倶知安駅-山田 6日目 山田-倶知安駅-千歳空港-伊丹空港 ㊦ 5日目の宿舎については友人のペンションで泊りますので、自由行動です。			
今月の集会 日時 6月9日(火) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室		企画運営委員会 日時 6月19日(金) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室	



じとじとと雨模様の天気が続く。天気図を見ると、日本列島の南岸には梅雨前線がどっかりと居座っている。まだ少々季節が早いような気がする。三室戸寺のシャクナゲは満開だがアジサイはこれからである。地球が年々暖かくなっている時代である。梅雨は早く、夏が長くなるのかも知れない。

4月26日に岡田氏と台川氏の退職記念登山が鈴鹿山脈鎌ヶ岳で行われた。前日からの雨も上がり、絶好の晴天に恵まれた。空気も澄んで新緑の鈴鹿の山なみと伊勢湾がきれいに見わたせた。お二人とも長年にわたり山岳部で活躍してこられた。岡田氏は4代目山岳部長として、山岳部を引っ張ってこられたし、台川氏も岩登りやスキー登山など多彩な活動をしてこられた。お二人ともまだ60歳。再就職先もすでに決まって、仕事もバリバリやっているし、山登りのほうも若いものに負けていない。何とか制約の多い現役部員より、OB部員のほうが自由な山岳活動ができる。これからもOB部員としてますますご活躍していただきたいものである。

地下鉄東西線の六地藏～醍醐間の免許が5月6日に下りた。来年には工事が始まる。完成予定は西暦2004年である。何かと話題を提供した東西線（醍醐～二条）の延伸工事である。いろいろな意味で注目されている。春の異動では建設部門の大幅な人員削減が行われた。困難な条件は多いが、失敗は許されない工事である。

6月14日は毎年恒例になっている天王山の清掃登山である。例年のように、山岳連盟の自然保護委員でもある岡田氏が担当してくださることになっている。 (H.10.5.17. 記.S.I.)

愛 宕 山

大 槻 雅 弘

4月11日。今年の春の訪れは早く、すでに嵐山の桜は散っていた。でも、少し場所が違うだけで清滝の桜はまだ満開であった。私は、先月号の部報で、少し時間をかけて愛宕山に登りたい、そして例会にも出そうと書いた。

当日、約束の9:00に清滝バス停に着くと、すでに和田夫妻が顔を見せていた、しばらくすると馬淵さん、森本さん、続いてバイクで岡田さん、そして、原田さんはタクシーでかけつけてくれ7名が集まった。「坂井氏も来るはずだが・・・」との声あり、少し待ったが姿が見えず、先輩のことだからそのうちどこからか現れるであろうということでバス停をあとにした。すると、案の定、登山口の鳥居の所で「何をしていた。8:25のバスで来て待っていたのに、遅い！」と例によっておしかりを受ける。アァーこれでいつものパターン。全員そろったところでいざ出発。

昨秋入院以来、7カ月ぶりに山仲間の元気な顔をこうして山で見て、山に登ること、山に登れることの喜びを感じる。ベッドの上では、いつになったら山に登れるようになるのだろうか、元気に山を歩いていた時のことばかりについて考えていた。病になって初めて健康体のありがたさをひしひしと感じていたのである。

「今日は部報を見ると“3時間??ほどかけてゆっくり登りたいと思います”と書いてあったのは本当ですか」という問い合わせ。えらいものです。病は、がむしゃらをも治すのか、少し時間をかけ山をゆっくり楽しむように教えてくださいました。

「約束通りに歩きます」と宣言して、ゆっくりと歩きだしてまず3合目でいっぶく。次に5合目の小屋、そして水尾の別れと順次休憩をする。いつもならとくに山頂に着いているのに、すでに2時間近くかかっている。休憩毎にお茶を飲んだりお菓子を食べたりで神社着は11:45。お参りをすませ、神社下の広場で昼食をしたときにはちょうど12:00、約束通りの3時間であった。お昼にと、少し冷やして持参した赤ワインが口当たりもよく、あっと言う間になくなり、ほろ酔いかげんのうちに1時間程がすぐに過ぎてしまった。

下りは変わったコースを採ろうということで、昔のケーブル跡を歩くことにした。朽ちてはいるがまだ形を残す山上駅から一直線に下る。1つ目は通れたが2つ目のトンネルは崩れ、それを過ぎた所からケーブル跡を外れ山腹をまいて林道に出た。最後は、清滝川をはさんで山腹の桜が窓越しに美しく見える店でお茶を飲み、ゆっくりのんびりした愛宕山の1日が終わった。

【参加者】 坂井、岡田、森本、和田夫妻、原田、馬淵、大槻

【第2168回例会】

日本海のみえる山

八ヶ峰 800.1m

山元 誠一

八ヶ峰の名前の由来は、頂上から昔の山城・近江・越前・加賀・能登・丹後・丹波・若狭の八つの国が見渡せることからついたと案内書に書かれており、その眺望は素晴らしくまた好天であれば、日本海までも遠望できる山ということで、前々から登りたいと思っていた。

明け方まで、雨は降っていたようであるが、7時少し前に起床した時には、雨はすっかり上がっており、予報でも、夕刻までは、雨は大丈夫とのことであり、八ヶ峰に向かう。当初は、もう二人の参加がある予定であったが、前日に急に参加できないとの連絡が入り、結局、鷺見さんご夫妻と私と兄の四名となった。

162号線を周山から安掛そして中から八原の登山口へ。1時間30分余りで到着した。登山口のところに駐車スペースがあり、1台の先着車から二人の方が丁度出発される場所であった。その二人の方は、登山口横の民家の跡地らしきところで早速「わらび」採りをされている。我々も、身仕度を整え、出発することとする。最初は、少し急な登りであるが、道端にさく「イワカガミ」「イカリソウ」など可愛い花々を賞でながらの登りで苦にならない。「スキー場跡地」を過ぎた所で小休止。その時、突然小鳥が何を思ったのか、警戒することなく、我々の周りの木々の間を飛び交う。木々の新芽の薄緑色が目に眩しい。

関西電力の鉄塔を過ぎ、木の階段を登り、もうひとつのピークをすぎると、「八ヶ峰」の頂上に到着。熊笹に覆われて、もっと歩きにくい道かと思っていたが、快適な道であった。頂上では、我々より先に出発された二人の方が食事を摂っておられた。

日本海が見える山ということで、登ってきたが、生憎、北の若狭の方は、ガスが次々に湧き出て何も見えなかったが、南の京都方面は、曇り空ではあるものの、まずまずの眺望であった。早く頂上に着き、ゆっくりと食事を摂ることとなったので、その間に北方もガスが晴れ眺望が利くようになったが、それでも、残念ながら、日本海を望むことはできなかった。頂上付近では、「ショウジョバカマ」が咲いていた。

下りは、元来た道に戻ることにする。50分余りで到着。駐車していたところでは若者のグループが、丁度「山菜」のテン普拉を楽しもうとしているところであった。

帰路は、佐々里峠から広河原経由、周山から帰ったが、途中「佐々里峠付近」で満開の桜の花を楽しみ、笠トンネルの手前では、山菜採りを楽しむことができた。

【参加者】 鷺見敏一， 鷺見壽未子， 山元誠一， ほか1名

【コースタイム】

壬生 (8:00) - 八原 (9:20 着 9:35 発) - 八ヶ峰頂上 (10:35 11:55 発) -
八原 (12:40 12:55 発) - 壬生 (16:00)

【第2169回例会】

蔵王「熊野岳」

梅津 吉田 武

塩見岳に行こうと計画を立てたが、林道工事のため、相当のアルバイトを強いられるので計画変更をした。

昨年スキーで登った蔵王地藏岳（ロープウェイで1,630mまで乗せてもらえる）から見ると近くに見えたので行こうと思ったが、タイムオーバーになるので行かなかった熊野岳に行こうと非番の日より新幹線のハシゴで山形駅に夕方6時に到着、駅前にて宿舎の予約をして最終の蔵王温泉行のバスに乗った。

スキーシーズンと違って乗客も少なく40分程で温泉口に降りた。

国民宿舎竜山荘に泊まった。夕食抜きのため外で少量の酒を飲んで就寝した。

ロープウェイが動いているので一番便（8時30分）に乗ることにした。温泉駅から樹氷原駅まで7分、下部に見えるアオモリトドマツが青々してその根元にだけ残雪があった。スキーゲレンデには影の所だけ少し雪があったがこれでは滑れない。9時前に地藏山頂駅についた。

地藏山までは15分程でついた。昨年登った時にあった塔がなかった。山頂から少し下って30分程登ったら二等△熊野岳についた。北方には雁戸山や船形山、北西には真白な月山、西方には三角形が真白な大朝日岳、西南に横たわって飯豊山脈も真白な衣を着けていた。

快晴の山頂で十分眺望を楽しんだ。誰一人として合わずに山頂を後にした。

地藏山との鞍部よりトラバースルートを歩いた。ユートピアゲレンデを横切って樹氷原駅から温泉駅までロープウェイに乗ってバス停についたらすぐにバスが発車しそうなので飛び乗った。11時40分のバスだった。

山形駅より「つばさ」と新幹線に乗継いで京都に帰った。

【第2170回例会】

前山岳部長岡田茂久，台川敦美，退職記念登山

鈴鹿 鎌ヶ岳 独標 1,157 m

大倉寛治郎

この記念山行も私にとっては山名が違うが79年5月20日にOBで，知る人ぞ知る坂井氏の退職記念登山「入道ヶ岳」の時が岡田，台川の両氏との初山行であった。思いでに残る同じ鈴鹿山系の鎌ヶ岳で記念山行が出来たのは，また新たな出会いの始まりであった。

4月26日（日）午前8時交通局厚生会館前へ集合する。すでに参加される方は集合されている。バイク1台，車4台に分乗して出発，途中乗車の台川さん，横井さんの車も再び名神東ICで合流。栗東ICまで高速を走り，国道1号線を土山町まで走り猪ノ鼻を左折鮎川，大河原，野洲川ダムを通り鈴鹿スカイラインをいく（現在は無料となり車の通行量も多くなって来た）。武平峠手前のカーブの所に有るパーキングに駐車する。現地集合の馬淵さん，小森さんと峠で合流して先発組は山頂へ出発する。手違いで物が届いてなく湯の山まで取りに行く。残ってもらった数人の方に物を分散して後を追う。途中見晴らしの良いところで休憩している先発組と合う。登山道は花崗岩類で侵食をうけ深く切り込んだ所もあり，アルプス的な山容をもつ山でもあり大いに楽しむことが出来る。稜線には少し遅すぎたがまだ（ヤシオツツジ）が咲いていた。また展望も大変よく伊勢湾，入道ヶ岳，御在所岳，360度の大展望を眺望でき，峠から短時間で山頂へ登れるとあって多くの登山者（ハイカー）が山頂を埋めていた。予定をしていた12時には29名が山頂へ着き，我々もその一団の人となる。皆さんのお手伝いをいただき手際よく（メニューのマカロニサラダ，キノコいり焼き肉，ギョウザ，大根サラダ，等の）盛り付けセレモニーの準備が出来る。缶ビールで乾杯，皆様が持参された料理，嗜好品等がでて宴たけなわとなる。一息ついたころ恒例の退職者に贈る記念品の贈呈式が井戸部長の司会で行われた。岡田氏には（レキのストック，タイツ），台川氏には（ディパック，タイツ）の記念品を参加者を代表して若い女性から色紙と共に両氏に贈られた。代表して岡田さんからお礼の言葉と，山岳部へ寸志をいただきました。記念撮影をして最後に伊藤先輩の音頭でヤッホーを三唱して往路下山。午後2時25分登山口で本日の山行のお礼を述べ現地解散する。

皆様のご協力で盛大に記念山行が出来ましたことを御礼申し上げます。

◎ 岡田茂久氏・台川敦美氏の退職記念登山参加者

岡田茂久， 台川敦美

伊藤潤治， 井戸澄夫 F 1， 今井勇一郎， 大倉寛治郎， 大槻雅弘 F 1， 岡本義弘，

方山宗子, 小森 浩, 坂井久光, 清水康弘, 竹田 勉, 田村正弘, 中山忠之,
 原田加津子, 古市昌造, 堀田 剛, 松浦健一, 松田誠二, 馬淵拓巳, 森本清一F1,
 津田 実, 横井襄二, 吉田 武, 鷺見壽未子 合計 29名

◎ 岡田茂久・台川敦美両氏の退職に際して、記念品の賛同者を募ったところ、下記のように多数の賛同者がありました。ご本人の希望により、岡田氏にはストックとストレッチパンツ、台川氏にはデイパックとストレッチパンツを記念品として贈呈いたしました。

また両氏から山岳部に対して多額の寄付を頂戴いたしました。山岳部の発展のために有意義に使わせていただきます。

・退職記念品 賛同者 (50音順 敬称略)

足立 公弘	荒田又之助	猪飼 康夫	石川かず栄	伊豆蔵 清
出海 洋三	伊藤 潤治	井戸 澄夫	今井勇一郎	井上 一夫
上島 和彦	上島 弘子	江草 哲史	大倉寛治郎	大杉 雅晴
大槻 雅弘	岡本 孝	岡本 義弘	角田 敏明	方山 宗子
鎌田 利雄	上村 次男	川原 傳治	木下 嘉造	木原 滋
近藤 薫	小森 浩	坂井 久光	坂田 利春	澤井 佳三
清水 康裕	関本 俊雄	竹田 勉	立花 雅彦	田村 正弘
辻 久男	津田 実	徳野 治	中村 維源	中山 忠之
西尾 直樹	原田加津子	平田 嘉輝	廣瀬光太郎	古市 昌造
堀田 剛	政 道代	松浦 健一	松田 誠二	馬淵 拓巳
三橋 勉	宮川 勇	森本 清一	柳田 晃	山岡 昭弘
山口 雅直	山下 周道	山村 俊郎	山元 誠一	横井 襄二
吉田 武	若山 裕孝	鷺見壽未子	鷺見 敏一	渡辺 智生
和田 良一				

(以上 部員)

(部員外) 中山夫人 大槻夫人

合計 68名

退職記念登山、記念品、永年の現役山岳部員活動を支えて頂いたお礼

岡田茂久

昭和32年4月に入局し、5月に山岳部に入部、初めての山行は丹波の長老山でした。それから数多くの山々を訪ねました。長かったようで短かった山岳部現役生活の41年間、入道雲沸くアルプスの稜線散歩、新雪の胸まで没するラッセル、腕の感覚も無くなる藪漕ぎ、青春を深夜まで語りつくしたテント生活、63国体との出会い、部長時代の12年、楽しかったこと、苦しかったこと、悲しかったこと、様々の出来事がありました。

その間には多くの先輩方の退職記念登山もありました。しかし、いつかは自分の番もやって来ることなど、なかなか実感としてわいてきませんでした。

そしてとうとう、その日がやってきたんです。山岳部現役時代を最初から最後まで、見守って頂いた先輩方、苦楽を共にしてきた岳友達、懐かしい顔も見えます。私達のために貴重な休日がありありがとうございました。たくさんの方々の御賛同による記念の品を頂きました。永年欲しかった物で思わずにんまりとしてしまいました。大事に使います。皆様、ほんとうにありがとうございました。

無事故で楽しく山岳部現役時代を過ごさせて頂き、微力な私が部長としての職責も何とか果たせることが出来たのも、すべて皆様のお陰と感謝しております。今後は京交山岳部OB部員として、少しでも皆様のお役にたてればと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

鎌 ヶ 岳

台川敦美

趣味が多い私には定年退職に付随する祝い行事も数多く、参加不参加も出来得ればの考えでしたが、避けて通れぬ道なれば……………（全く避けられませんでした）で礼を失する言い方、考え方とお叱を受けそうですが、京友は三分の俠気と一点の素心です。

しかし山頂に立ち、時は春、花は紅、柳は緑、晴天の中、見晴らしはよく眺めは彼方の空遠く、山のアナアナアナ——夕であの尾根の向こうの谷には思い出の多い場所もあり……………。多数ご参加頂いた皆様様の御尊顔を拝し色々な山行の思い出も沸々と湧き上り迷い惑う気持ちは雲霞の如く霧散致し候です。

頂上でのカンパイは気分最高、先輩諸氏より頂いた般若湯で体も心もホカホカと心地よく皆様御厚志の立派な記念品や心に残る色紙を頂戴いたし日々是れ好日の趣きでした。

交換出来ぬ体のパーツに頭を悩ませながら、通って見なければ不明な道を諸先輩の後塵を拝し

つつ航海（何処で沈没するかな？）に進みたいと思ってます。末筆ながらこの紙面をかりまして永年に亘り諸先輩後輩の皆様より暖かいご指導とご厚情に心より感謝いたし厚くお礼申し上げますと共に今後とも従前同様変わらぬご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

【第2171回例会】

残雪をもとめて湖北の山 金 糞 岳 独標 1,314 m

大 倉 寛治郎

この山は83年3月25日（金）「例会第1420回」で参加者は私と息子（和寛、小学5年生）でした。記録は「息子と共に中津尾根1,053m地点間で行ったが、体調をくずしたので引き返した。コウモリの頭より残雪があった」、部報の例会報告のみである。

当時の記録を整理して見ると、近江高山から草野川沿いに二俣キャンプ場へ分岐を右へ林道を詰めると金糞岳登山口の標識がありそこに車を止め、植林の中を深谷と白谷の出会いへ下る。橋を渡り尾根へ取り付く。ジグザグにのぼると徐々に残雪が出てきて快適な登りとなる。小休止を繰り返して快晴の中調子が出て来たとき、息子が足が痛いと訴える。見ると水ぶくれができており応急手当をして残念だが引き返した。彦根の一等雨壺山136.94mを登り帰路に着いたとある。それ以後北陸道を走る度、気になる山の一つであった。

今回98年4月29日（水）祝日に念願の金糞岳を15年ぶりに登ることになった。午前5時30分胡麻の自宅を出発、花園で津田さんと乗り合わせ厚生会館前へ、既に井戸さんが我々を待って居られた。京阪五条で森本夫妻と合流する（この時間待ちのとき、京都山の会の横田さんと合う、たずねると湖北の山己高山へ車4台に分乗して登るとのことでした。）。6名が揃い名神東インターから高速を米原から北陸道を走り神田パーキングで休憩を取り、木之本インターで高速道を降りる。小谷山の裾野を通り、小室から谷牧隧道を抜け草野川沿いに北上してバス停のある高山の集落へ橋を渡り二俣のキャンプ場へでた。金糞岳の案内標識を見ると林道は相当上部までついている。我々は舗装された林道を詰め中津尾根コース標高660m位を横断した所の少しいった右側にする。「斜面を斜めに登る」所に登山口の標識があり、その先には既に5台ほど駐車してあり私たちもここに駐車する。履物を変え出発、先程のところから取り付き尾根筋をジグザグによく踏まれた登山道を進む。途中休憩を取り45分で予想どおり林道にする、そこは大変広くなっている。林道は鳥越峠を越え岐阜県側の坂内村へつながっていると思われる。階段になった登山道を登り尾根へ沿って登って行くと小朝頭へ着いた。ここで一息入れる。1,120mのピーク（県境で鳥越峠からの分岐でもある踏み後は分からなかった）。せっかく登って来たの
り
となる。少し荒れてはいるが往路のことを思うと辛い。平坦とな
ス

の会」の標識があった。1,075 m のピークを過ぎると再び登りとなる。林道へ目を向けると坂内村からの林道は舗装されRV車が気持ち良く登っていた。頂上へ20分の標識の所を通過するころから沢山の植物が咲いていたが名前がわからず知識不足で残念。しかしお陰で登りの辛さをいやしてくれた。稜線に出ると展望も開け気分も爽やかとなる。山頂までにも5～6組の登山者と合う。12時15分には念願の金糞岳に達することが出来た。展望は大変良く心行くまで楽しませて頂きました。白倉岳へ足を延ばす予定であったが次回に回し往路下山。須賀谷温泉で気持ち良い汗を流しさっぱりとして、長浜インターから高速へ、名神東インターで高速を出て壬生へ着く。15年もたつと奥深い山もみじかな山となり、苦勞して登られた先輩に申し訳なく思いつつ報告を書く。参加して下さった皆様お疲れさまでした。

【参加者】 津田 実, 井戸澄夫, 森本清一 F 1, 大倉寛治郎 F 1

【コースタイム】

胡麻自宅 5:30 — 花園の家 6:25 ~ 6:41 — 壬生厚生会館前 6:50 ~ 7:05 —
五条京阪 7:17 ~ 32 — 名神東 I C 7:42 — 神田 P A 8:29 ~ 40 —
木之本 I C 8:51 — 金糞岳登山口 9:32 ~ 45 — 林道へ出る 10:30 —
小朝頭 11:03 ~ 06 — 林道への道 (岳友タンスの会) 11:18 —
頂上へ20分の標識 11:45 — 金糞岳山頂 12:15 ~ 13:30 — 小朝頭 14:10 ~ 17 —
林道を横断 14:37 ~ 40 — 登山口 15:07 — 駐車の所 15:10 ~ 27 —
須賀谷温泉 15:22 ~ 16:54 — 名神東 I C 18:30 — 壬生 18:50

【第2172回例会】

奈良～飛鳥 歴史街道 マラソンハイキング

大 倉 寛治郎

近鉄奈良駅をスタートして天理石上神宮、大神神社、桜井駅、橿原市昆虫館、国営飛鳥歴史公園館までの42 kmを走破するマラソンハイキングです。

私は今回で3回目の参加となります。前回は清水康裕、馬淵拓巳、両名が参加してくれました。例会として取り組みましたが、前日からの雨と朝から降り出した雨で奈良駅では参加者は確認できませんでした。

98年5月3日(日)花園の娘の家を6時に出発する。竹田車両基地に車を預け竹田駅へ。6時43分の急行で西大寺駅にて乗り換え7時31分奈良駅へ着く。改札を出ると既に大勢の参加者

で構内は熱気であふれていた。受付を済ませコース地図をもらい身仕度をして居る間にも電車が着くたび参加者が列を作り受付済ませスタートしていった。外は大変な雨で悩んで居る方も大勢おられた。雨具を着て我々も（娘婿とその父、私の3名）午前7時51分スタートする。階段を上がり外に出ると雨は激しく降り、歩道は小川のように流れている。ジョギングシューズはすぐにぬれ靴下はボトボト、これから先どうすることやら。今回はコースが7カ所変更され、またチェックポイントが無くなり、ポイントを指定時間までに通過するように変更となった。11.9km（時計台）を9時45分、石上神宮17.8kmを11時00分に通過して21.6km、集荷場へ11時41分に着き昼食を取る。

12時11分スタート雨も止み日がさし出す。大神神社29.6km13時40分、近鉄桜井駅32.5km14時15分に着く。ここまで来ると気温も上がり靴の中の足もむくれ、ボチボチ水ぶくれができてきた。Tシャツと半タイツで頑張る、橿原市昆虫館15時06分、川原寺跡を15時39分ゴールまで1.2km疲れた足、体に後少しと言いつけサポーター（嫁、嫁いだ娘、孫）が待っているゴールへは娘婿の父がテープを切った。約束の16時まで（15時58分）には何とかゴールできた。

受付で踏破証明書（「エキスパートコース42km」あなたは、「第9回奈良～飛鳥歴史街道マラソンハイキング」において42kmコースを踏破されたことを証明いたします。平成10年5月3日、財団法人奈良県体育協会、近畿日本鉄道株式会社）をもらう。参加賞のジュース、バッジをもらい準備してくれた缶ビールで乾杯して労をねぎらう。ちなみに娘婿の父は第1回から連続参加ですべて完走です。

井戸部長に集会で聞けば清水さんも参加され完走したと聞きました。感想はどうでしたか。

北海道の早春の山旅

坂井久光

道内の世話になった友人達にお礼少々訪問したいと思っていたところ山崎さんからお誘いもあり、彼のライフワーク日本千山に協力の一端とも考えて先にTACの河野女子と渡道し4/15に滝川駅で待合す約束で4/13舞鶴発のフェリーで小樽港上陸。バスで札幌に行き、学友の元武長支店長の森田氏を訪問。土産を持参し久潤の挨拶や学友の消息を語ったり、学生時代の思い出を語り合い過去十数回の渡道の際、私のライフワークを支持し続け大変お世話になった礼を述べ、近くの岳友平野明氏に電話したら在宅でH・B・Cを定年退職して毎日サンデ生活とか、早速愛車で来訪し、久しぶりの三人会談となり、支部の岳人の情報を聞いたりし、近くのホテルの料亭で昼食を森田氏に御馳走になり、平野氏の車で最寄りの駅迄送って頂き、午後深川市の岳友田

中利一氏を訪問した。彼も年をとり難病にかゝり、登山もやめて余生を長男が隣で歯科医をしており安楽に暮らしていると語り、昔近くの音悍山と一緒に登った元気な姿が夢の様であった。

懐久談に時を過ごし、別離を惜しみバスで滝川駅へ。18時の約束時に丁度山崎氏の車が現れ、近くのサイクリングセンターに行き一泊。夕食は近くの寿司屋で三人で豪華な夕宴となった。

翌16日新十津川町から浜益へ向かって走り、午前中雨だったので途中二等三角点を登りに林道に入ったが除雪なくワカンとスキーで中腹迄林道をつめて登ったがよい道がなく撤退し浜益温泉に入ってその夜は車泊。

翌16日群別岳登山を目標に浜益の渡辺さん（平成7年山形氏と訪れた精通者）を尋ねて群別岳の登路を聞きに行き久しぶりに実家を訪れたが留守で、その日は群別岳への登路となる幌川林道を調査したりして夕食は浜益の民宿の食堂でとったが、その時渡辺さんが店へ立ち寄り再会を祝して会食し乍ら登山ルートや危険箇所、熊等に付いて詳しく聞いて附近の道傍で車泊。翌日河野さんは羊蹄山へ。私等は5時出発。林道分岐で駐車。朝食後ブル道へ迷って入り小1時間ロスして林道を発見（根曲竹で分岐点が覆われていた）。谷沿いの林道をワカンとスキーで登りやがて緩い尾根筋に出て快晴の残雪期の登頂を楽しんだ。やがて1,280m独標に着いて昼食休憩して山頂迄三の程の岩峰の登り下りヘツリを慎重にザイルで確保して進み、葡松の露出した前峰を右側山腹をアイゼンピッケルでトラバースして山頂を下に出て遂に山頂三角点（1,376m）へ。暑寒別岳・浜益岳等懐かしく思い出の山々が指呼の間に見晴らせ、北や東西に銀嶺が春光に輝く。

二人で万歳三唱後記念撮映し充分展望を楽しみ休憩後往路下山。途中林道終点付近で日が暮れ、谷川化した林道をヘッドランプをつけて駐車場に下山。渡辺さんに無事下山を報告してその夜は浜益温泉で入浴後車泊。

翌18日札幌へ行き藻岩山麓のアルパインガイドK・K社長の川越昭夫（皓充）を訪問、土産を渡し「北の三角点探訪」第二集を頂き昼食を御馳走になった。その後山崎さんの社用をしてから翌日の漁山登山に備え福祉センターに行き入浴後車泊。翌19日漁岳登山口で一等三角点研究会員の宮島氏と待ち合わせ三人で二等三角点1,318mへ。林道は除雪なく500m程しか入れなかったが、踏跡があり数台の車が駐車していた。

快晴で一部根曲竹や葡松が出ていた所があったが途中一緒になった銭高組部長の金沢さんと共に先登者十人程のいる山頂へ。恵庭岳や樽前岳が真近く眼下に恵庭湖が札幌周辺の山々が一望出来た。そこへ山崎さんと知合の老人（65歳位）が登って来て寄遇に喫驚していた。

昼食休憩後往路下山。その夜は札幌のホテルで河野さんと合い近くの寿司屋で宮島氏と四人で彼女との別離の晩餐会となり翌日千歳空港から一足先に帰宅するとか。その夜は翌日の空沼岳登山に備えて真駒内のセンターで車泊。翌20日空沼岳登山口に行き駐車。よい登山道を辿って3.7K上流の盤計湖の山小屋へ行き小休後、尾根を越え上の沼辺を通り、踏跡を辿って更に奥のピー

クへ。山崎さんは地図を車に忘れて来たと言って何処が空沼岳か判らず踏跡の方向は札幌岳へ向かっているようだと思ひ、左方のピークに取り合えず登って見ようとして登って先に大きなピークを見て尾根筋を辿ると踏跡と合し空沼岳に登頂。三角点はなく独標らしい。二人で万歳三唱し昼食後盤計湖小屋で落ち合う約束で私はワカンなので先に踏跡を辿り下山したが、途中林中で踏跡が乱れ判らなくなり迷った末上沼に出たが踏跡もなく仕方なく谷筋を下り先方に林道を見付けて下ったが駐車地に出て又湖畔の小屋へ急いで登り返した。後1Kの地点で私を探したが判らず下山して来る山崎さんと出会い暗くなりヘッドランプをつけて無事下山。その夜は社用で早く帰れとのことで小樽発23:30の敦賀行フェリーで翌21日夕刻帰洛した。

四 国 の 山 旅

坂 井 久 光

4/30近鉄大久保駅に集合。京都山の会の山崎氏のお誘いで、合同の中村・稲垣両氏と中川女史の一行5人で20時彼の愛車で出発。大阪南港からフェリーで新居浜港へ。5/17:50上陸。

天候は雨模様で野営は無理と見て昨年泊まった別子銅山跡のキャンプ舎に予約してマイントピア別子で少時休んで別子ラインを南下県道のインネルを越え住友林業のホレストピアで駐車。此所で案内のパンフをもらって谷筋の登山路を登って平家平1,693mへ。小雨模様で一同雨衣で出発。登山跡が崩壊の為、迂回路をとったが、分岐の標柱を左にとった為谷川を渡り、左廻りコースをとった。谷川は澄み凄冽そのもの。新緑の山は全く美しい。谷筋をはずれると杉林の支尾根のジグザグの急登。石楠花が美しく、山桜や土佐三葉ツツジも咲いていた。主稜近くになると緩やかになり稜線に出てアケボノツツジに出会った。

コブを幾つか越えやと三等三角点のある四国笹に覆われた山頂へ。約2時間半で12:30で約40分昼食休憩。風をさけて風下の岩上で休んで下山。西に登り幾つかコブを越え冠岳1,732mを越えて尾根筋を下山。山菜をとり乍らホレストピアに無事下山。その夜はマイントピア別子(東平)で山菜のテンプラや今朝港で頂いた釣りたての小鯛の刺身やテンプラを賞味して入浴就寝。翌2日は車で藍塚高原キャンプ場の頂上藍塚峰三等三角点1,043mへ。牧場跡の草原峰で登山路も整備されており楽に登頂。ゼンマイ・ワラビを採ったりして下山。吉野川の名勝・大歩危へ行って昼食休憩後祖谷川への県道を行きトンネルを出て左折。神社のある峠の登山口で駐車。国見山二等三角点1,409mへ良い登路を登った。

杉・松の植林尾根を登り長い緩い登路を辿り、避難小屋や小祠のある処を通り急坂をつめて頂上へ。ガスで展望はよくなかったが、附近はゼンマイの宝庫で群生していた。小憩後往路下山。登り1時間半、下り約1時間。

その夜は祖谷のキャンプ場の一室で宿泊。

昨夜は雨だったがすっかり晴れて3日は祖谷川沿いに剣山に向かって走り、落合から谷を高巻いて走り落合峠で駐車。標高1,520mでロボットがあった。四国笹の切開を登って矢筈山1,848mの二等三角点へ。山頂附近は可成険しく岩峰を巻いて登ったり0.8Kに30分程かかった。展望宏大なるがガスの為視界不良。昼食休憩後往路下山。落合から祖谷川沿いに走り、その夜は菅生のキャンプ場で幕営した。翌4日は快晴で見越から剣山1,955m一等三角点へ登り、次いで隣の次郎ギユウ1,929mへ登って昼食休憩。展望雄大で石鎚山や三嶺・矢筈山・白髪山等が聳立って見えた。下山は峠から見越へ下りその後祖谷温泉へ行き入浴。

平成3年長野の清水栄一氏と一泊した思い出のホテルで汗を流し、その後祖谷川沿いに下り川口から藍塚高原の麓を通り新居浜港へ行きフェリーで大阪南港へ5日午前6時頃着。寝屋川・枚方經由大久保駅で解散帰宅。

点を巡礼 (その3)

伊藤潤治

1月11日(日)雨

とうとう十二支会は雨降りになった。

だが還暦・古希・喜寿・傘寿の方は何れに御座すや、皆さんそれぞれ見事に雨ニモマケナイ覚悟がおできであって、実に若々しく元気なお姿ばかりである。

私たちは虎ヶ岳に本隊が到着するまでに、烏帽子岳を登ってきたいので、別行動の許しを得て、熊毛町下畑にある常安寺からの入山をさせてもらった。

先ず常安寺である。簡素にしておかし難い尊厳がただよい、南に煙るそのたたずまいに感動し、うなってしまった。

登山道も自然林のあと整然と立ち並ぶ人工林や小さい滝や清らかな溪流など、予想外の美観が相次ぎ雨中苦を忘れさせてくれた。

光市との境界稜に上がり右折して登ると、虎ヶ岳であったが、荷物を木陰に託して烏帽子岳に

向かう。

境界稜は生き生きとした双方からの照葉樹林と中央を秋色で彩っている枯れ茅群から成っていた。踏跡はその枯れ茅群につけられていた。

波打つような起伏の具合や風になびく枯れ茅の情景は、自然歩道のたのしさである。

逍遙約30分にて棚からぼたもちの成果。烏帽子岳（基準点名来卷山）二等三角点、標高412.4m（徳山）が登頂できた。

展望のよさそうな山頂であったが、雨と霧では見るものがなかった。この烏帽子岳の至近にももう一山、烏帽子岳Ⅱ 696.6mがあり、『日本山嶽志』に出ている。それを大烏帽子岳、こちらは小烏帽子岳と呼びならしているそうである。

風に揺れる優雅な枯れ茅を分けて虎ヶ岳に戻ったが、祝福行事は後続待ちをしていた。虎ヶ岳（三角点ナシ）は標高414mだが、光市の最高で瀬戸内海の展望がすばらしいようだ。

ことしの十二支会は75人、報道は92人とか、祝福をうける人は9人。山頂の行事は還暦・古希・喜寿・傘寿を迎えた仲間に、祝辞や記念品を贈り、乾杯・万歳三唱、そして祝宴に至るのだが、ことしは悪天のため乾杯・万歳三唱で打ち切って、早々に下山しなければならなかった。

常安寺に下山して、寺の縁先を拝借したお弁当はおいしさの極楽であった。

そして執拗に降る雨にあきれた結果、後座に予定してきた太平山Ⅰ 631m（防布）は、「助さん・格さん、”もう、いいでしょう。”」ということにいたし、三角点巡礼から私たちはニコニコ顔で、悠然と家路についたのであった。

【参加者】 河村 清, 小森脩造, 高木志茂子, 伊藤潤治

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2167	愛宕山	4月11日		大槻 雅弘	坂井, 岡田, 森本, 和田, 原田, 馬淵, 他1名	(別稿詳報)
2168	八ヶ峰	4月18日		山元 誠一	鷺見敏一, 鷺見壽未子, 他1名	(別稿詳報)
2169	(変更)熊野岳	4月22日		吉田 武		(別稿詳報)
2170	退職記念登山 鎌ヶ岳	4月26日		井戸 澄夫 大倉寛治郎	岡田, 台川, 伊藤, 今井, 大槻, 岡本, 馬淵, 森本, 方山, 小森, 坂井, 津田, 横井, 清水, 竹田, 田村, 吉田, 鷺見壽, 中山, 原田, 古市 他3名 堀田, 松浦, 松田	(別稿詳報)
2171	金糞岳	4月29日		大倉寛治郎	津田, 井戸, 森本, 他2	(別稿詳報)
2172	マラソンハイキ ング	5月3日		大倉寛治郎	清水	(別稿詳報)

部 員 動 静

目的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
北海道の山旅	4月15日 ～21日		坂井 久光	(別稿詳報)
四国の山旅	4月30日 ～ 5月5日		坂井 久光	(別稿詳報)
物部山 高畑山	4月12日		伊藤 潤治	4月12日, 物部山Ⅲ708m(但馬竹田), 高畑山Ⅲ984m(生野)から好もしく見えたので, 登路は朝来町物部か上八代と思っていた。地形図を眺めている間に養父町唐川に変わり, 唐川の谷倉神社の尾根をたどったがこんな美しくステキな登路はちょっとないでしょう。(長男と親子登山)
竜ヶ尾山	4月19日		伊藤 潤治	4月19日, 竜ヶ尾山Ⅲ413m(京都西南部)。そばに亀岡ゴルフ場があり, 許しを乞い端を歩き, 標石へは茂みをほんの2, 3分で。(家族との遊山)
鹿伏兎城跡 行者山	4月30日		伊藤 潤治	4月30日, 鹿伏兎城跡とは, 「関氏の一族で天正11年(1583年)秀吉軍に破れ落城したが, 現在も石垣や大木。古井戸には澄んだ水をたたえている」という。登路は関西本線加太駅西隣の神福寺から, そこに立ってみたが案内のものは目にとまらなかった。探索する気の起こらぬまま城跡をあとしると, 美事な大樹群や自然には思わず歓声をあげた。掃いて拭いたような尾根筋と波打つ如き起伏の面白さ, 林道をまたぐが, やはり涼やかでどこまでも小鳥のさえざりウグイスの美声が追ってきた。行者山も樹林の中で静かであった。さらに汚れなき樹林を進み東海自然歩道にのり, 牛谷川林道に出て, 加太駅に戻った。近くに山路酒店があったことは, また新たな感動であった。(単独行)
鷲ヶ岳	5月3日		吉田 武 森本 清一 他2名	蛭ヶ野GCより林道をつめて祠まで1時間, 祠より頂上まで55分, 頂上の展望は最高で北ア, 剣, 立山, 遠く能郷白山まで見える。 白山は今年は雪が少ないと思った。

雑 報

△△△ 5月の集会

日 時 5月8日(金) 18:30
場 所 厚生会館 4階 大教室
参 加 者 (本局) 井戸, 井上, 方山 (OB) 三橋
(梅津) 吉田 (高速) 大倉

以上6名

△△△ 4月の企画運営委員会

日 時 4月20日(月) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出 席 者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋, 馬淵, 山岡
内 容 例会予定, 岳連関係

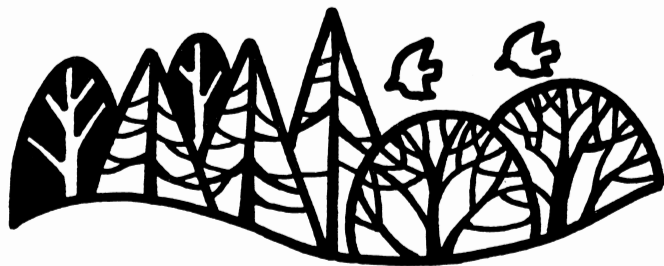
△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

4月号 わっぱ
5月号 北山, 一等三角点, 青嶺, 趣味の登山, 木雞, 山友, 近畿山行,
京都山岳, わっぱ, 熊笹だより

△△△ 岳連関係

- ・ 6月7日 無積雪期の救助訓練
金毘羅周辺
- ・ 6月27日 18:00～
指導員研修会(中小企業会館)
文登研 柳沢氏の講演
- ・ 7月17日～20日
京都府山岳連盟創立50周年記念
八ヶ岳自然観察登山(主峰赤岳周辺の自然観察)
申込締切日 7月6日(月)
申 込 用 紙 事務局 馬淵まで

△△△ 1998年京都府山岳連盟結成50周年記念中国・チベット拉布吉康山群登山
京交山岳部から寄付(10,000円)いたしました。



家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎ 601-8121 電話 (075) 672-6101(代)
FAX (075) 661-7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4
TEL (075) 571-1108

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

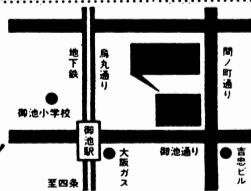
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



株式会社 **ロッジ**
LODGE

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US産品
ポータブルソフト用品

Mountain

〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(268)-0548
営業時間 AM10:00-PM8:00 無休火曜定休
(株) スポーツ コニシ

葦あしの髄すいから天井てんじょうを覗のぞく： ㊸

時間に余裕があったので、綾部までJRの鈍行で出張した。所要時間2時間4分、特急との差は51分で、特急料金の一、四五〇円が高いか安いかは別問題にして、久方振りに各停の旅を味わった。保津峽を彩る緑に目を休め、クモの巣のかかった無人駅に過疎の村を想い、堅いシートもさほど気にならず綾部に着いた。時間に追われる毎日の業務から逃れて、ゆったりとした気分になった。「目黒の秋刀魚」ではないが、汽車は鈍行にかぎる。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五―七九―一六二二五
(文責 波多野)



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600-8150 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)
☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成10年 6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部